

2016年3月11日

各 位

SBS 即配サポート株式会社

横浜事業所にて次世代蛍光灯直管形CCFL※照明導入 —需要増を見込むOAリサイクルセンターの作業効率向上を目指す—

SBS 即配サポート株式会社（社長：久原誠、本社：東京都江東区）は、自社の産業廃棄物中間処理施設である環境事業部横浜事業所内に設置している、OAリサイクルセンターおよび処理後選別ラインエリアの蛍光灯を、全てCCFL照明に交換いたしました。



当社環境事業部は、SBSグループにおける「静脈物流」のプロフェッショナル集団として、循環型社会の構築に貢献しています。当社が運営する中間処理施設の東雲事業所（東京都江東区）と横浜事業所（横浜市金沢区）では、廃棄物の収集・運搬から中間処分、再生原料化までの一貫処理が可能で、1日あたり合計370トンの廃棄物の中間処理が可能です。

このたび当社では、横浜事業所2階に設置しているリサイクルセンターと処理後選別作業ラインエリアの蛍光灯の経年劣化に伴い、LED照明より機能が進化し近年注目されているCCFL照明の導入を決定。2月27、28日の2日間で、既存照明設備の解体工事およびCCFL蛍光灯144基と専用電子安定器、照明器具等の据付設置工事を完了いたしました。

		<p>【導入したCCFL照明概要】</p> <p>製造販売：日本エコ照明(株) 型番：NGCKTU201 型式：CCFL照明器具 反射笠器具(笠付) 40W形 サイズ：150×1225mm 消費電力：56W 設置数：144基 設置面積：720m²(218坪)</p>
照明器具を交換しCCFL電球を導入	工事完了後のリサイクルセンター 細かい手作業の作業環境向上に期待	

「次世代蛍光灯」とも呼ばれるCCFL蛍光灯は、一般的なLED照明と同等の寿命と省電力機能があり、経済性に優れており、加えてLED照明よりも柔らかく自然光に近い安定した光を発します。ブルーライトの発生量も少ないとから作業者の目にも優しく、VDT作業環境に適合した光源としても評価されています。

個人情報・企業機密等の漏えい対策強化のニーズは、組織のコンプライアンス強化に伴い今後ますます多様化し増加していくと考えられます。OA機器の安全・確実な廃棄処理が可能な当社横浜事業所のリサイクルセンターは、お客様のご要望に迅速・確実にお応えできるよう現場の生産性向上のために、施設や設備の拡充を積極的に検討してまいります。

以上

※CCFL (Cold Cathode Fluorescent Lamp)

冷陰極蛍光管照明。フィラメントでの過熱無しで熱電子を放出させるタイプの蛍光灯。パソコンのモニターや液晶テレビのバックライト等に40年来利用されてきた信頼性の高い光源。

■ご参考

< S B S 即配サポート株式会社概要 >

本 社：東京都江東区新砂1丁目5番29号

代 表 者：代表取締役社長 久原 誠

設 立：1993年3月

親 会 社：S B S ホールディングス株式会社（持株比率100%）

資 本 金：1億円（2015年7月現在）

従業員数：528名（2015年3月末現在）

拠 点 数：22拠点（本社、即配事業部9、パートナー事業部5、環境事業部2、K R 事業部5（うち海外1か所））

事業内容：企業間の小口荷物を一都三県で集荷・配達する即配事業、特定企業の専属宅配便に特化したパートナー事業、ゼロ・エミッションを目指し産業廃棄物を中間処理する環境事業、店舗用什器製品に関する製造・物流事業（K R 事業部）

U R L：企業サイト

<http://www.sbs-sokuhaisupport.co.jp/sp1/>

中間処理施設のご案内

<http://www.sbs-sokuhaisupport.co.jp/sp1/service/destination/>

【横浜事業所 概要】

許 可 番 号：横浜市5620014605

所 在 地：〒135-0062 神奈川県横浜市金沢区幸浦2-2-5

処理方法・能力：破碎106.56t/日、圧縮141t/日、溶融1t/日、切断10.22t/日

産業廃棄物の種類：①廃プラスチック類 ②金属くず ③ガラスくず、コンクリートくず
及び陶磁器くず ④紙くず ⑤木くず ⑥繊維くず ⑦かれき類

■本件に関するマスコミからのお問い合わせ先

S B S ホールディングス株式会社

I R ・広報部 南 輝子

TEL：03-3829-2240／e-mail：contact11@sbs-group.co.jp

※当資料に掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、
あらかじめご了承ください。